

保育者養成における表現教育について

多保田 治 江

I はじめに

23rd International Society for Music Education World Conference (第23回 国際音楽教育会議) が UBUNTU (慈愛に満ちた社会のための音楽教育) というテーマの下に南アフリカ共和国プレトリアで開催され、昨夏参加する機会を得た。会期中、様々なレクチャー・ワークショップ・デモンストレーションや世界各地 (ドイツ・ハンガリー・カナダ・アメリカ・オーストラリア・ニュージーランド・フィンランド・台湾・中国・アンゴラ・ケニア・ナンビア・南アフリカ) からの演奏団体によるランチコンサートやイブニングコンサートが行われた。

私の所属する Early Childhood Music Education (幼児音楽教育部門) で発表されたレクチャー・ワークショップの発表を中心にいくつかを紹介しよう。

○ 「FAMILY MUSIC」 Mclaughlin HM Ms (オーストラリア)

1984年から行っている「FAMILY MUSIC」という活動は、子どもたちの両親や保育者が一体となって推進している。子どもの音楽性を育てるためには子どもたちの両親の協力と保育者が適切な環境を作り出すことや子どもを見る目が重要であることを発表者と共にオーストラリアから参加した子どもやその家族をモデルとしたワークショップによってその実際を知ることができた。

○ 「ITALY-FINLAND ; Making Music together meeting of two different cultures and ways of teaching

O. Mattio (イタリア), S. Perkio (フィンランド)

イタリアとフィンランドの歌を幼児音楽のテキストとして有効に用いている様子をワークショップで見せてくれた。ラップランドの静かな歌は保育者の優しい歌声も良いがメロディをブロックフルーテやクロマハープで演奏すると一層温かい音となり聞き手の心が安定する。イタリアの早口言葉の歌はお国柄というかメロディが華やかでモーションを加えると一層楽しく歌うことができた。

○ 「Learning to Listen・Listening to Learn」

Wendy L. Sims (アメリカ)

幼児期に音楽を聴くことは極めて大切なことである。音楽を注意深く聴くことによって子どもたちは様々な音楽能力や創造力を高めることができる。具体的には、まず音楽を聴く。次に音楽に

合わせてそのイメージを指や上半身を用いて表わすというワークショップであった。

Wendy L. Sims (コロンビア大学教授) は ISME 幼児教育部門会長である。私も「聴くこと」が音楽教育の中でとても大切であると長年思っている。様々な音楽を感じて個々の子どもが自分なりに感じた事柄を身体で表現することは「音楽作り」への興味にも繋がるとともに、自ら考える能力や感性豊かな人間性を育成することともなる。ただ、Wendy L. Sims が提示した方法は新鮮味がなく、既に私が大学の授業で実施しているような内容だったので残念であった。

今回のコンサートの中で、地元南アフリカの幼稚園児による演奏を2グループ実際に見ることができたことは大きな収穫だった。一方はThe Monument Park Nursery Schoolの子どもたちによる「パークッションオーケストラ」である。なんと演奏時間が8分程で終わる一曲のみのショートコンサートであった。「猫の髭」と題し、お揃いの白いTシャツ(子どもたちが自分で描いたと思われる猫の絵がついたもの)とGパンという服装で音楽のリズムに合わせてタンバリン・トライアングル・ボンゴ・クラベス・フィンガーシンバル・すずなどを鳴らしていた。中には身体全体で音楽を感じていると思われる男の子、数種の楽器を曲想に合わせて鳴らす女の子もいた。もう一方は音楽劇「不思議の国のアリス」で、Laerskool Garstantein Nursery Schoolの子どもたちが演じた。こちらの子どもたちの衣裳は本格的なものであった。コーラス隊のいるステージサイドから歌う順番がくると誇らしげに笑顔でステージ中央に進み出て、同じ役の友達と役になりきって歌っていた。子どもたちの両親や兄弟も見に来ており、ビデオカメラで我が子の姿を撮る様子は「万国共通である」と思われた。

ところで、日本の幼児教育に目を向けると、領域「表現」において、What(何を)豊かな感性や創造性を、Who(誰に)子どもにという点では明確であるが、How(どのように)という点つまり「表現活動の展開」については、「幼稚園教育要領」ならびに「保育所保育指針」が改定されて久しいが、現在も未だ試行錯誤の状態であると思われる。

子どもにとって魅力的な表現活動となるための適切な環境を作り出すことができ、子どもたちの様々な表現活動に対して柔軟に対応できるような保育者を育成することが我々保育者養成校の使命であると私は考える。そこで今回の小論において、学生たちの表現活動への取り組みの様々な様相と思考の筋道から表現教育の方向性について考えてみたい。

II 各種動きからイメージする擬音語・擬態語

保育内容研究IV「子どもの表現活動」(3単位1・2年, 通年)における音楽と動きによる表現の授業では、学生自身の感性を磨くことと子どもの表現しようとする意欲やクリエイティブな活動がどのようにしたら育つか援助できるかを授業内容としている。その中で、授業の前半のねらいは「身体を認識する」とし、様々な動きを身体で表現するような単元計画となっている。動きは「場所を移動する動き」と「その場で行う動き」に大きく分けられるが、今回10種類の動きからイ

保育者養成における表現教育について

メージする擬音語・擬態語を調査した。この調査の目的は、動きに対してどれだけ多くのボキャブラリーを持っているかを調べるためである。調査した動きは次である。

「場所を移動する動き」	「その場で行う動き」
1 あるく	6 ゆれる
2 はしる	7 のびる
3 とぶ	8 ちぢむ
4 すべる	9 おす
5 まわる	10 ひく

<対象>

H短期大学保育科1年生 119名

<実施期間>

1999年7月

<調査結果と考察>

(1) 「あるく」からイメージする擬音語・擬態語

表1のように総数438個の擬音語・擬態語の回答があった。

『あるく』(438)

状況を変える(329)

1 元気に	91	(てくてく89 ずんずん2)
2 軽快に	62	(とことこ53 ちょこちょこ8 ちょろちょろ1)
3 急いで	57	(すたすた49 さっさ2 たったっ3/せかせか・たかたか・ばたばた)
4 ゆっくりと	36	(のろのろ10 だらだら7 とろとろ5 ふらふら5 ぶらぶら2/ずしん・たらたら・のそのそ・のっそのっそのこのこ・へなへな・もたもた)
5 淋しそうに	27	(とぼとぼ27)
6 足音たてて	16	(どたどた5 どかどか3 ばたばた2/さっさ・たんたん・どしどし・どしんどしん・どすどす・とんとん)
7 颯爽と	13	(さっさ9 きびきび2/さくさく・しゃきしゃき)
8 忍び足で	5	(のそのそ3/こそこそ・そろそろ), ハイヒールで5 (こつこつ4/かつかつ)
裸足で	5	(べたべた3 ぺたぺた2), 辛そうに5 (ふらふら2/するする・ずるずる・よたよた)
12 楽しそうに	3	(うきうき3)
13 着物を着て	2	(しゃなりしゃなり・そろりそろり)
14 缶ぽっくりを履いて	1	(ぼくぼく), 下駄を履いて1 (からんころん)

イメージするもの(106)

1 ゆっくり歩く 動物 象・熊・ 亀・恐竜	46	(のそのそ14 のろのろ10 のっそのっそのっ8 のっしのっし7 ずしーん3 どしんどしん2/ずしん・どしどし)
2 赤ちゃん	26	(よちよち22 よたよた2 ぴよこぴよこ・よろよろ)

多保田 治 江

- 3 お相撲さん 11 (どしんどしん2 どすどす2 どすんどすん2/どしどし・のそのそ・のっしのっし・のっそのっそ・ゆっさゆっさ)
- 4 小動物や虫 7 (ちょこちょこ7)
- 5 雛 (ぴよこぴよこ3 ひよこひよこ) 4, 犬・ペンギン・雛(とことこ4) 4
- 7 馬 3 (ばかばか2 ぼくぼく) 3
- 8 蟻 (ちょこちょこ・ちょこまかちよこまか) 2, ペンギン(ぺたぺた2) 2
- 10 怪しい人 1 (うろうろ)

特定の場所(3)

- 1 砂利道 (ざくざく・ざっ) 2
- 2 水溜まり (ばちゃばちゃ) 1

表1『あるく』 総数438

順位	擬態語・擬音語	人数
1	てくてく	89
2	とことこ	57
3	すたすた	49
4	とぼとぼ	27
5	よちよち	22
6	のろのろ	20
7	のそのそ	18
8	ちょこちょこ	16
9	のっそのっそ	14
10	さっさ	10
11	のっしのっし	8
12	だらだら ふらふら	7
14	どたどた	6
15	とろとろ どしんどしん	5
17	こつこつ ぴよこぴよこ どすどす	4
19	うきうき ずしーん たったっ どかどか どしどし ぺたぺた べたべた	3

順位	擬態語・擬音語	人数
26	きびきび ずんずん どすんどすん ばかばか ばたばた ぼくぼく ずしん ぶらぶら よたよた	2

その他 45

うろうろ	そろりそろり
かつかつ	たかたか
からんころん	たらたら
こそこそ	たんたん
さくさく	ちよこまかちよこまか
ざっ	ちよろちよろ
ざくざく	とんとん
しゃきしゃき	のこのこ
しゃなりしゃなり	ばたばた
するする	ばちゃばちゃ
ずるずる	ひよこひよこ
せかせか	へなへな
そろそろ	よろよろ
ゆっさゆっさ	

(27)

これは今回調査した10種類の動きの中で一番多い回答であった。「てくてく」と回答した学生が最も多く89人(75%)、次いで「とことこ」57人(48%)、「すたすた」49人(41%)であった。

イメージする擬音語・擬態語の「具体的な動き」は「状況を変える」、「イメージするもの」、「特定の場所」の3つのカテゴリーに分けることができる。その中で、「状況を変える」が15種類329個(75%)と一番回答が多かった。また、「元気に」・「軽快に」・「急いで」あるいは、ゆっくりあるく動物(象・熊・亀・恐竜)をイメージした学生が多かった。

(2) 「はしる」からイメージする擬音語・擬態語

表2のように総数281個の擬音語・擬態語の回答があった。

『はしる』(281)
状況を変える(192)

1 軽快に	74	(たったっ50 たかたか6 さっ4 だっだっ3 ばたばた3 すたすた2 とっと2/さっさ・たたー・とんとん・ぱっぱっ)
2 足音たてて	72	(ばたばた26 だっだっ14 どたどた10 ばたばた9 どたばた4 だーっ4 すたこら2/さっさ・どどっ・どんどん)
3 急いで	33	(びゅーん8 びゅんびゅん4 すたすた3 だーっ3 たったっ3 だっだっ3 ひゅんひゅん2/すたこら・すっすっ・とことこ・どたばた・ばたばた・びゅー・びゅー・びゅー)
4 全力で	7	(びゅーん3 さーっ2 だーっ2)
5 足取り重く	6	(どたどた3 しよぼしよぼ・たらたら・どすどす)

イメージするもの(89)

1 馬	31	(ぱっかぱっか12 ばかばか9 たったっ5 かつぼかつぼ・たかたか・たたー・どたばた・ぱっぱか)
2 新幹線	21	(びゅんびゅん13 びゅーん5 ぼびゅん・びゅー・ひゅんひゅん)
3 車	9	(ぶーん4 びゅーん2 ぶいーん・ぶおーん・ぶるる)
4 蟻	5	(ちょこちょこ4 ちょろちょろ)
5 忍者		(さっさ2 びゅー2) 4, 集団(さっ・たーっ・どどっ・どかどか) 4
7 電車	3	(がたんごん2 ごんごん)
8 お相撲さん		(どすどす・どたどた) 2, 猪・象(どたどた2) 2, 駝鳥(たったっ2) 2 子ども(ちょこまか・どたどた) 2
12 ゴキブリ		(がさごそ) 1, 鼠(とことこ) 1, ペンギン(ばたばた) 1, トトロ(とことこ) 1

「たったっ」と回答した学生が最も多く60人(50%)、次いで「ばたばた」27人(23%)、「だっだっ」20人(17%)であった。

イメージする擬音語・擬態語の「具体的な動き」は「状況を変える」、「イメージするもの」の2つのカテゴリーに分けることができる。「状況を変える」の回答は両極端で「軽快に」が74個(39%)、「足音をたてて」が72個(38%)であった。また、「馬」や「新幹線」をイメージした学生が多かった。

表2 『はしる』 総数281

順位	擬態語・擬音語	人数
1	たったっ	60
2	ばたばた	27
3	だっだっ	20
4	どたどた びゅんびゅん	17
6	びゅーん	15
7	ばたばた	13
8	ぱっかぱっか	12
9	ばかばか	9
10	だーっ	9
11	たかたか	7
12	どたばた	6
13	さっ すたすた	5
15	さっさ ちょこちょこ びゅー ぶーん	4
19	すたこら とことこ ひゅんひゅん びゅーん どどっ	3

順位	擬態語・擬音語	人数
24	がたんごん さーっ たたーっ とっと	2

その他 20

かつぼかつぼ・がさごそ・ごんごん・しよぼしよぼ・すっすっ・たーっ・たらたら・ちょこまか・ちょろちょろ・どすどす・どかどか・どんどん・とんとん・ぱっぱか・ぱっぱっ・びゅーびゅー・ぼびゅん・ぶいーん・ぶおーん・ぶるる	(20)
--	------

(3) 「とぶ」からイメージする擬音語・擬態語

表3のように総数279個の擬音語・擬態語の回答があった。

『とぶ』(279)

イメージするもの(150)

1	兎・蛙・カンガルー	108	(びよんびよん81 ぴよーんぴよーん11 ぼーんぼーん8 / ぴよーんぴよーん4 ぴよこぴよこ2 とーんとーん・ぼんぼん)
2	鳥・蝶	15	(ばたばた6 ばたばた4 ばさばさ4 ちょんちょん)
3	雛	9	(ぴよこぴよこ3 ぴよっぴよっ3 ひよこひよこ・ぴよこんぴよこん・ぴよんこぴよんこ)
4	蜂	5	(ぶーん5)
5	ウルトラマン		(しゅわっち3 とぅ)4, 象(どすどす・どすんどすん・どっしんどっしん・どんどん)4
7	飛行機		(ぶおーんぶおーん3)
8	とびうお		(しゅっしゅっ)1, バッタ(びよんびよん)1

状況を変える／スポーツ／遊び(120)

1	小さく／なわとび・まりつき	55	(びよんびよん22 ぼんぼん13 とんとん9 ひよひよひよ4 ひゅんひゅん2 しゅっしゅっ・ちょこんちょこん・ひゅっひゅっ・びゅんびゅん・ふわっふわっ)
2	大きく／とび箱	35	(ぼーんぼーん20 ぴよーんぴよーん3 ぼんぼん2 どすんどすん2 すとんすとん・どしどし・どんどん・ぼーんぼーん・ぼんぼん びゅんびゅん びゅーんびゅーん・びよーんびよーん)
3	高く／トランポリン・棒高とび	25	(ぴよーんぴよーん15 ぴよーんぴよーん4 ぼよーんぼよーん2 ぼよよんぼよよん2 びよよーんびよよーん ぼーんぼーん)
4	片足で／三段とび／ケンパ	5	(とんとん2 けんけん・けんけんば・とっどとーん)

特定の場所(9)

1	空	5	(ふわっふわっ5)
2	水溜まり	2	(ぼちゃぼちゃ・ぱしゃぱしゃ)
3	階段		(とんとん)1, 塀から塀にとびうつる(ひらりひらり)1

「びよんびよん」と回答した学生が104人(87%)と約9割を占めた。次いで「ぼーんぼーん」29人(24%)、「ぴよーんぴよーん」「びよーんぴよーん」「びよーんぴよーん」19人(16%)であった

イメージする擬音語・擬態語の「具体的な動き」は「あらく」動きと同様に3つのカテゴリーに分けることができるが、「イメージするもの」、「状況を変える」、「特定の場所」の順であった「イメー

表3『とぶ』 総数279

順位	擬態語・擬音語	人数
1	びよんびよん	104
2	ぼーんぼーん	29
3	ぴよーんぴよーん びよーんぴよーん	19
5	ぼんぼん	15
6	とんとん	13
7	ばたばた ふわっふわっ	6
9	ぴよこぴよこ ぶーんぶーん	5
11	ばさばさ ばたばた ひよひよひよ	4
14	しゅわっち どすんどすん ぴよっぴよっ ぶおーんぶおーん	3

順位	擬態語・擬音語	人数
18	しゅっしゅっ どんどん ひゅんひゅん びゅんびゅん ぼよよんぼよよん ぼよーんぼよーん	2

その他 22

24	けんけん・けんけんば・どしどし・すとんすとん・ちょこんちょこん・ちょんちょん・どすどす・とぅ・とーんとーん・ぱしゃぱしゃ・とっどととーん・どっしんどっしん・ぼーんぼーん・びよこんびよこん・ひゅっひゅっ・びゅーんびゅーん・ひよこひよこ・ぼちゃぼちゃ・びよよーんびよよーん・ぼんぼん・びよんこびよんこ・ひらりひらり(22)	
----	---	--

保育者養成における表現教育について

「ジするもの」の中では「兎・蛙・カンガルー」が108個（72%）を占めた。また、「状況を変える」のカテゴリーでは、スポーツや遊びと結びつけてイメージした学生が多かった。

(4) 「すべる」からイメージする擬音語・擬態語

表4のように総数271個の擬音語・擬態語の回答があった。

『すべる』(271)

特定の場所(139)

1	雪や氷の上	119	(つるつる56 つるん32 つるつるっ9 ずるずるっ7 つるりつるり4 するするっ3 すべすべ2 つるりんつるりん2 つるーん2 しゅっしゅっ・ぴゅーぴゅー)
2	滑り台	9	(すーっ4 シャー2 すーいっいーひゅーん)
3	野球のホームベース	5	(ざざー3 だだっ・だー)
4	落とし穴	4	(するるる2 ずりずり・するっ)
5	木の上から下へ	2	(するするっ2)

イメージするもの(127)

1	スキー・スケート・そり	125	(しゅしゅ28 すいすい26 すーっすーっ16 シャーシャー15 するする5 すーいすーい4 しゅーしゅー4 すいーっすいーっ4 すっすっ3 すらーすらー3 ざーっざーっ2 ざざーっざざーっ2 シャっシャっ2 つーっー2 するするっ・しよっしよっ・さーっさーっ・じゃっじゃっ・がーっがーっ・しゅるーしゅるー・ひゅーひゅーしゅんしゅん・つるつる)
2	鰻		(ぬるぬる) 1, 露 (つーっ) 1

状況を変える(5)

1	静かに	3	(すーっすーっ2 そーっそーっ)
2	ゆっくりと	1	(するーりするーり), 雪崩 1 (だだっ)

「つるつる」と回答した学生が57人（48%）、次いで「つるん」32人（27%）、「しゅっしゅっ」28人（24%）、「すいすい」26人（22%）であった。

イメージする擬音語・擬態語の「具体的な動き」として、「あるく」「とぶ」動きと同様に3つのカテゴリーに分けることができるが、「すべる」動きだけが「特定の場所」が最も多く、5種類139個（51%）であった。

表4『すべる』 総数271

順位	擬態語・擬音語	人数	順位	擬態語・擬音語	人数
1	つるつる	57	19	ざざーっざざーっ	2
2	つるん	32		ざーっざーっ	
3	しゅっしゅっ	28		シャー	
4	すいすい	26		シャっシャっ	
5	すーっすーっ	18		すべすべ	
6	シャーシャー	15		するるる	
7	するするっ	11		だだっ	
8	つるつるっ	9		つるりんつるりん	
	ずるずるっ	7		つるーんつるーん	
10	すいーっすいーっ すーいすーい すーっ しゅーしゅー つるりつるり	4		その他 18	
15	ざざー すっすっ すらーすらー つーっ	3	がーっがーっ・さーっさーっ・ しゅんしゅん・しゅっしゅっ・ じゃっじゃっ・しゅるーしゅる ー・しよっしよっ・ずりずり・す ーい・するーりするーり・するっ そーっそーっ・だーっ・つーい ぬるぬる・ひゅーん・ひゅーひゅ ー・ぴゅーぴゅー (18)		

「特定の場所」では「雪や氷の上」が119個（86%）であったことや「イメージするもの」の中では「スキー・スケート・そり」がイメージする擬音語・擬態語の回答が最も多く23種類125個（98%）であったことは、北陸という雪と関係ある土地柄からくるものだろうと思われる。

(5) 「まわる」からイメージする擬音語・擬態語

表5のように総数271個の擬音語・擬態語の回答があった。

『まわる』(299)

状況を変える(171)

- 1 大きく 58 (ぐるぐる53 ぐるんぐるん3 びゅんびゅん2)
- 2 小さく 47 (くるくる45 ぴゅっぴゅん・ぐいっぐいん)
- 3 素早く 41 (くるんくるん11 くるりくるり8 ぐるんぐるん7 くるっくるっ4 ぐるっぐるっ3 ぐるりぐるり2 ぎゃい-んぎゃい-ん・くるりんくるりん・びゅ-んびゅ-ん・ひゅるりんひゅるりん ぶるんぶるん・ぶんぶん)
- 4 ゆっくりと 25 (ごろんごろん8 ごろごろ7 ころころ5 ころんころん2 ぐる-りぐる-り2 ぶわ-ぶわ-)

イメージするもの(128)

- 1 糸車・風車・自 25 (くるくる20 ぐるぐる5)
 転車
- 2 人形 21 (くるくる15 ぐるぐる6)
- 3 ボール・サイ 18 (ころころ17 ころりんころりん)
 コロ・卵
- 4 丸太・石臼・ 12 (ごろごろ10 ごろんごろん2)
 大玉
- 5 ヘリコプター 11 (ぐるんぐるん4 ひゅんひゅん2 ぐおんぐおん・くるんくるん・ぱらぱら・ぶるるんぶるるん・ぶるんぶるん)
- 6 ジェットコー 7 (ぐるんぐるん5くる-んくる-ん・ご-っご-っ) 7, 扇風機(くるくる5ば
 スター たばた・ぶ-んぶ-ん)
- 8 こま 5 (くるくる4 びゅんびゅん)
- 9 洗濯機 4 (ぐるぐる3 ぐおんぐおん)
- 10 歯車・宝く 3 (からから2 かたかた) 3, ねずみ花火(しゅるしゅる2 しゅるるしゅ
 じの箱 てるる) 3
- 12 ラッコ 2 (くるんくるん2) 2, 時計の針(かちかち2) 2, リボン(くるくる2) 2
- 15 猫 1 (ごろんごろん) 1, 熊(ごろんごろん) 1, モーター(うい-んうい-ん) 1, ハンドル(くるくる) 1, コーヒーカップ(くるくる) 1, メリー
 ゴーランド(くるくる) 1

表5 『まわる』 総数299

その他 18

順位	擬態語・擬音語	人数
1	くるくる	94
2	ぐるぐる	67
3	ころころ	22
4	ぐるんぐるん	19
5	ごろごろ	17
6	くるんくるん	14
7	ごろんごろん	12
8	くるりくるり	8
9	くるっくるっ	4
10	ぐるっぐるっ びゅんびゅん	3

順位	擬態語・擬音語	人数
12	かちかち からから ぐおんぐおん ぐるりぐるり ぐる-りぐる-り ころんころん しゅるしゅる ひゅんひゅん ぶるんぶるん	2

うい-んうい-ん・かたかた・ぎゃい-んぎゃい-ん・ぐいっぐいっ・くる-んくる-ん・くるりんくるりん・ご-っご-っ・ぴゅっぴゅっ・ころりんころりん・しゅるるしゅるる・ぱたぱた・ぱらぱら・ひゅるりんひゅるりん・びゅ-んびゅ-ん・ぶんぶん・ぶわ-ぶわ-・ぶるるんぶるるん・ぶ-んぶ-ん

(18)

保育者養成における表現教育について

「くるくる」と回答した学生が94人（79%）、次いで「ぐるぐる」67人（56%）と多かった。

イメージする擬音語・擬態語の「具体的な動き」は「はしる」動きと同様に「状況を変える」、
「イメージするもの」の2つのカテゴリーに分けることができる。「イメージするもの」が20種類
と今回の調査の中で2番目に多い回答であったことは、「まわる」という動きが日常生活の中
で様々な場面で見ることができることを物語っている。

(6) 「ゆれる」からイメージする擬音語・擬態語

表6のように総数287個の擬音語・擬態語の回答があった。

『ゆれる』（287）

イメージするもの（230）

1	ブランコ	40	(ゆらゆら36 きーこきーこ2 ぎーこぎーこ・ひゅーんひゅーん)
2	ワカメ	37	(ゆらゆら35 ふらふら2)
3	木の葉	26	(さらさら11 ひらひら5 さわさわ4 かさかさ3 がさがさ・ざわざわ・わさわさ)
4	風船	16	(ふわふわ15 ふわりふわり)
		16	カーテン・布 (ゆらゆら11 そよそよ5)
6	木の枝やつる	12	(ゆさゆさ2 ぶらぶら2 ぶらーんぶらーん2 ぶらんぶらん2 ぶるんぶるん2 ぎーぎーひゅーひゅー)
	象	12	(ぶらぶら7 ぶらーんぶらーん5)
8	花	11	(ゆらゆら11)
9	洗濯物	10	(ゆらゆら7 ぶらぶら2 ふらふら)
10	紙・旗	7	(ぱたぱた3 ぴらぴら3 ぺらぺら)
11	電車	6	(がたんごとん5 ごとごと)
12	時計の振り子		(ぶらぶら2 かちかち・こちこち・ふらふら) 5, 幽霊 (ゆらゆら4 くねくね) 5
14	風鈴		(ちりんちりん4) 4, 橋 (ぐらぐら2 ぐらんぐらん・ゆれゆれ) 4
16	ろうそく		(ゆらりゆらり2 ゆーらゆーら) 3, 酔っぱらい (だらんだらん・ふらふら・よたよた) 3
18	やじろべい		(くらくら) 1, メトロノーム (かちかち) 1, シーソー (ぎったんぼったん) 1, ゆりかご (ぎじぎじ) 1, バス (ごとごと) 1, 糞虫 (ゆらりーんゆらりーん) 1, 火 (めらめら) 1, 蝶々 (ひらひら) 1, 馬の尻尾 (ちょろり) 1, 水面 (ふうあーん) 1, 波 (さーさー) 1, 船 (ゆらりゆらり) 1, 草 (わさわさ) 1

状況を変える（57）

1	大きく	47	(ぐらぐら33 がたがた13 ぐらりぐらり)
2	小さく	9	(かたかた3, ぶるぶる2 ぶらぶら・ぶるぶる・ぶるぶる・ゆらゆら)
3	ゆっくり	1	(すーすー)

「ゆらゆら」と回答した学生が105人（88%）と今回の調査の中で一番回答が集中した。次の「ぐらぐら」35人（29%）とは大きく隔たりがあった。

多保田 治江

イメージする擬音語・擬態語の「具体的な動き」は「はしる」「まわる」動きと同様に2つのカテゴリーに分けることができる。しかしながら、「はしる」「まわる」が「状況を変える」方が多かったのに対して「ゆれる」は「イメージするもの」の方が回答が多かった。また、今回の調査の中で最も種類が多く30種類230個(80%)であった。自然界の現象をはじめ、我々のまわりに「ゆれる」動きが多くあることを示している。

表6『ゆれる』 総数287

順位	擬態語・擬音語	人数
1	ゆらゆら	105
2	ぐらぐら	35
3	ふわふわ	15
4	ぶらぶら	14
5	がたがた	13
6	さらさら	11
7	ぶらーんぶらーん	7
8	がたんごとな そよそよ ひらひら ふらふら	5
11	さわさわ ちりんちりん	4
13	かさかさ かたかた ばたばた ぴらぴら ぶるぶる ゆらりゆらり	3

順位	擬態語・擬音語	人数
19	かちかち きーこきーこ ごとごと ぶらんぶらん ぶるんぶるん ゆさゆさ わさわさ	2

その他 27

がさがさ・ぎーぎー・ぎーこぎー こ・ぎったんぼったん・ぎじぎ じ・くねくね・くらくら・ぐら りぐらり・ぐらんぐらん・こち こち・ざわざわ・さーさー・す ーすー・だらんだらん・ちよろ り・ひゅーひゅー・ひらひら・ひゅ ーんひゅーん・ふうあーん・ぶ るぶる・ふわりふわり・ぺらぺら ・めらめら・ゆーらゆーら・ゆれ ゆれ・ゆらりーんゆらりーん・よ たよた (27)
--

(7) 「のびる」からイメージする擬音語・擬態語

表7のように総数287個の擬音語・擬態語の回答があった。

『のびる』(287)

イメージするもの(280)

1	身長	67	(ぐんぐん29 ぐん15 すくすく12 ずんずん2 のびのび2 ぐぐっ・ぐいっ・ぐいーんぐいーん・じわじわ・すーっどんどん・ひよろり)
2	ゴム	60	(びよーんびよーん45 びよーんびよーん8 ぐぐっ 2 びよんびよん2 びよーんびよーんびよーんびよーん)
3	木の芽	56	(によきによき32 ぐんぐん13 ぐん4 ぐいーんぐいーん3 すくすく2 ぐいぐい・びよんびよん)
4	背伸び	36	(うーん12 ぐーっ10 ぐん5 ぎゅー2 ういーん・うによーん・きゅー・にゅーん・ひゅー・びーん・ふあー)
5	背筋・手先	17	(びーん5 びん4 すーっ3 ぐいっぐいっ3 うーん・ぐーっ)
6	つる	13	(ぐんぐん8 ずんずん2 ひよろひよろ2 するする)
7	びっくり箱	7	(びよーんびよーん3 びよーんびよーん2 びよよーんびよよーん2)
8	ロープ	5	(しゅるしゅる2 ぴんぴん2 びーん)
	ばね	5	(びろーんびろーん2 びよびよ・びよーんびよーん・びーん)
10	お餅	4	(だらーんだらーん・どろーんどろーん・ねばねば・びよーんびよーん)
11	布		(すーっすーっ・だらーんだらーん) 2, 梯子車(ぐいーんぐいーん2) 2, きのこ(ぐぐっ・にゅにゅ) 2
14	海草		(によるによる) 1, こんにやく(ぐによーんぐによーん) 1, 飴(どろどろ) 1, ビノキオの鼻(びゅーん) 1

状況を変える(7)

1	一気に	5	(びよーん4 ぐん)
2	徐々に	1	(によきによき), 静かに1(するする)

保育者養成における表現教育について

「ぐんぐん」と回答した学生が50人（42%）、次いで「びよーんびよーん」47人（39%）、「によきによき」33人（28%）であった。

イメージする擬音語・擬態語の「具体的な動き」は「イメージするもの」と「状況を変える」の2つのカテゴリーに分けることができる。「ゆれる」動きと同様に「イメージするもの」の回答が多く、280個（98%）と大半を占めた。自分の身体・ゴム・植物など我々の身のまわりに「のびる」動きが多くあることを示している。

表7『のびる』 総数287

順位	擬態語・擬音語	人数	順位	擬態語・擬音語	人数
1	ぐんぐん	50	20	ぎゅー	2
2	びよーんびよーん	47		しゅるしゅる	
3	によきによき	33		するする	
4	ぐん	25		だらーんだらーん	
5	すくすく	14		のびのび	
6	うーん	13		ひよろひよろ	
7	ぐーっ	11		びよーんびよーん	
8	びよーんびよーん びーん	9		びんびん	
10	ぐいーんぐいーん	6		その他 21	
11	ぐぐっ	4	ういーん・うによーん・きゅー・ ぐいっ・ぐいぐい・ぐによーん ぐによーん・じわじわ・すーっ すーっ・どろどろ・どろーんど ろーん・どんどん・にゅーん・ にゅにゅ・によろによる・ねば ねば・びによーんびによーん・ びゅーん・ひゅー・ふあー・び よびよ・ひよろり		
	すーっ				
	ずんずん				
	びよーんびよーん びよーん びん				
17	ぐいっぐいっ びよんびよん びろーんびろーん	3	(21)		

(8) 「ちぢむ」からイメージする擬音語・擬態語

表8のように「ちぢむ」動きは今回の調査の中で回答が一番少なく、総数201個の擬音語・擬態語であった。

『ちぢむ』(201)

イメージするもの(197)

1	身体	58	(ぎゅーっ18 きゅっ16 しゅん6 ぐっ4 しゅるしゅる3 きゅん3 ぶるぶる2 くしゅ・しゅ・しゅーん・しわしわ・すとーん・へなへな)
2	風船	49	(しゅー18 くしゅくしゅ12 しゅるる5 しゅーん5 ぷしゅ4 きゅーきゅっ・しおしお しよぼしよぼ・びちびち)
3	紙・布	38	(くしゃくしゃ17 きゅっきゅっ10 ぐしゅぐしゅ2 ぎゅーっ2 しゅるしゅる2 くちやくちや・しゅわしゅわ・しゅん・じんじん・ふわわん)
4	髪の毛	11	(ちりちり10 じりじり)
5	ロープ	7	(しゅるしゅる4 きゅっ2 きゅん)
6	泡	6	(しゅわしゅわ3 しゅーしゅー・じゅわー・しゅん)
7	花	5	(しゅん3 しゅわしゅわ2) 5, ばね(きゅっ5)
	タイヤ	5	(しゅーん2 ぐにゃっ・ぷしゅー・ぺしやん)
10	亀・蝸牛が頭を隠す	4	(ぎゅっ2 しゅるる・すっ)
11	ゴム	3	(ぎゅっ・ばちっ・ひゅーん) 3, シーツ(しわしわ3)
13	ナメクジ		(しゅわ) 1, 肉(じゅー) 1, 顔(きゅっ) 1

状況を変える(4)

1	一気に	2	(きゅっ・ぎゅっ)
2	力なく		(ふにゃふにゃ) 1, 徐々に(しよぼーん) 1

「きゅっ」と回答した学生が26人(22%)、次いで「ぎゅーっ」20人(17%)、「しゅー」18人(15%)、「くしゃくしゃ」17人(14%)と様々な回答に分散した。

イメージする擬音語・擬態語の「具体的な動き」は「ゆれる」「のびる」動きと同様に2つのカテゴリーに分けられ、「イメージするもの」が197個(98%)と大半を占めた。自分自身の身体が「ちぢむ」とイメージしたものが58個(49%)であった。

表8『ちぢむ』 総数201

順位	擬態語・擬音語	人数
1	きゅっ	26
2	ぎゅーっ	20
3	しゅー	18
4	くしゃくしゃ	17
5	くしゅくしゅ	12
6	しゅん	11
7	きゅっきゅっ ちりちり	10
9	しゅるしゅる	9
10	しゅーん	8
11	しゅわしゅわ しゅるる	6
13	ぎゅっ きゅん ぐっ しわしわ ぶしゅ	4

順位	擬態語・擬音語	人数
18	ぐしゅ ぶるぶる じゅわ	2

きゅー・くしゅ・くちやくちやくにや・しおしお・しゅ・じゅー・しゅわ・しよぼーん・しよぼ・すっ・じりじり・じんじんすとーん・ぱちっ・ぴちぴち・ひゅーん・ぶしゅ・ふにやふにや・ふわわん・ペしゃん・へなへな (22)

(9) 「おす」からイメージする擬音語・擬態語

表9のように「あるく」に次いで多い総数334個の擬音語・擬態語の回答があった。

『おす』(334)
状況を変える(211)

- 1 力強く 119 (どんっ28 ぐっ18 ぎゅーぎゅー15 ぎゅー11 ぐいっ9 ぼん7 ぼん4 よいしよ4 えい3 うーん2 がんがん2 ぐいぐい2 どかどか2 どすこい2 どすどす2 どーん2 がーぐいーん・ずいずい・どしどし・ぼーん・よっ)
- 2 軽く 48 (ぼん25 とん19 ちょん3 ぼん)
- 3 後ろから 41 (どんっ36 どーん5)
- 4 長時間 3 (ぐいっ2 うーっ)

イメージするもの(123)

- 1 ボタン 43 (ぼん12 びっ11 ぎゅっ5 ぼちっ5 かちっ4 ぱちっ2 ぶしゅ2 ぶちっ・びっぼっぼっ)
- 2 戸 42 (ぎぎー7 ぐーっ7 ぼん7 ぎゅっ5 ぎー5 すー2 ずず2 どんどん2 どーん2 うーん・とんとん・ぼたん)
- 3 チャイム 12 (ぴんぼん11 ぶしゅ)
- 4 お相撲さん 5 (どすどす2 どしどし・どすこい・どど) 5, 判子(ぼん4 ぺたっ)
- 6 うばぐるま 4 (かたかた2 がーがーぎーこぎーこ)
- 7 キーボード 3 (かちかち・かちやかちや・がちやがちや)
- 8 スプレー 2 (しゅっしゅっ・びゅっ), ボール(ぼん2) 2
- 10 つぼ 1 (つんつん) 1, ピアノ(ぼろんぼろん) 1, スポンジ(ぐにゅ) 1, 焼印(じゅっ) 1, ブランコ(ぐんっ) 1

保育者養成における表現教育について

「どんっ」と回答した学生が64人(54%)、次いで「ぼん」47人(39%)であった。

イメージする擬音語・擬態語の「具体的な動き」は「はしる」「まわる」動きと同様に2つのカテゴリーに分けられる。「状況を変える」の中の「力強く」はイメージする擬音語・擬態語の種類が今回の調査中2番目に多く22種類119個(56%)であった。「イメージするもの」として「ボタン」43個(35%)や「戸」42個(34%)の回答が多かった。

表9『おす』 総数334

順位	擬態語・擬音語	人数
1	どんっ	64
2	ぼん	47
3	とん	19
4	ぐっ	18
5	ぎゅーぎゅー	15
6	ぼん	14
7	ぎゅー ぐいっ ぴっ ぴんぼん	11
11	ぎゅっ	10
12	どーん	9
13	ぎぎー ぐーっ	7
15	ぎー ぼちっ	5
17	かちっ どすどす よいしょ	4
20	うーん えい ちよん どすこい ぶしゅ	3

	擬態語・擬音語	人数
25	かたかた がながん ぐいぐい すー ずず どかどか どしどし どんどん ばちっ	2

うーっ・がー・がーがー・かち かち・かちやかちや・がちやが ちや・ぐいーん・ぐにゅ・ぐんっ・ ぎーこぎーこ・じゅっ・しゅっ しゅっ・ずいずい・つんつん・ どど・とんとん・ぼたん・ぼん・ ぴゅっ・ぴっぽっぱっ・ぶちっ・ べたっ・ぼーん・ぼろんぼろん・ よっ	(25)
---	------

(10) 「ひく」からイメージする擬音語・擬態語

表10のように「ちぢむ」に次いで少ない総数252個の擬音語・擬態語の回答があった。

『ひく』(252)

イメージするもの(250)

1	綱引き	96	(ぐいぐい53 ぎゅっ16 ぐいっ7 ぐーっ4 するする3 しゅーっ2 ぎゅっぎゅっ2)
2	引き戸	52	(すーっ13 きいーっ13 ぎーっ11 ぎぎーっ4 さーっ2 しゃー2 えい・がーっ・かた・がちや・がらがら・ききーっ・すいっ)
3	大きなかぶ	25	(よいしょ13 よっこらしよ3 うんこらしよ2 うんとこしよ2 よっこいしょ2 うんとこどっこいしょ・ぐぐっ・よいこらしよ)
4	重い荷物	23	(ずるずる6 ぐーっ6 ずずっ5 がらがら2 うっ・ぎーっ・ががっ・ぐんぐん)
5	波	20	(さーっ11 すーっ7 さらさら・ささ)
6	糸	11	(びんびん2 しゅっ2 ぎゅーぎゅー・ぐいっ・ぐっ・すっ・ぱっ・ぴっぴっ・ぴゅん)
7	カーテン	5	(しゅっ3 しゃっ2)
8	電気の紐	4	(くいっ2 かちっ2)
9	サイドブレーキ	3	(がくん・ぎーっ・ぎゅっ)
10	椅子		(すーっ2) 2, ゴム(ぎゅーっ・びよーん) 2
12	トランプ		(さっ) 1, 鋸(ぎこぎこ) 1, 荷車(がらがら) 1, 魚(ぐいぐい) 1, 布(ぱっ) 1, 潮(ざざ-)1, 靴紐(きゅっ)1

状況を変える(2)

静かに	2	(すーっ2)
-----	---	--------

「ぐいぐい」と回答した学生が54人(45%)、次いで「すーっ」24人(20%)、「ぎゅっ」17人(14%)であった。

イメージする擬音語・擬態語の「具体的な動き」は「イメージするもの」が大半を占め、18種類250個(99%)であった。その中で「綱引き」が96個(38%)、劇あそびや歌として用いる「おおきなかぶ」は25個(10%)であった。

表10『ひく』 総数252

順位	擬態語・擬音語	人数
1	ぐいぐい	54
2	すーっ	24
3	ぎゅっ	17
4	きいーっ ぎーっ さーっ よいしょ	13
8	ぐーっ	10
9	ぐいっ	8
10	ずるずる	6
11	しゅっ ずずっ	5
13	がらがら ぎぎーっ	4
15	するする よっこらしよ	3

順位	擬態語・擬音語	人数
17	うんこらしよ うんとこしよ かちっ きゅっきゅっ くいっ しゃっ しゃー しゅーっ ぱっ ぴんぴん よっこいしよ	2

その他 35

うっ・うんとこどっこいしよ・
ーっ・うーん・えい・えいえい・
ががっ・かた・がくん・がちゃ・
がーっ・ききーっ・ぎこぎこ・
ぎしぎし・ぎゅーっ・きゅっ・
ぎゅーぎゅー・ぐいーん・ぐぐっ・
ぐっ・ぐんぐん・ざざー・さら
さら・ささ・さっ・すっ・すいっ・
ずーっずーっ・ぴっぴっ・びゅ
ん・ひよい・びっ・びよーん・
よいこらしよ・わっしよい
(35)

各種動きからイメージする擬音語・擬態語の回答数

回答数	あるく	はしる	とぶ	すべる	まわる	ゆれる	のびる	ちぢむ	おす	ひく	人数
0				2		1		5	1		9
1	2	21	19	20	12	26	16	50	17	36	219
2	19	45	47	48	45	41	50	45	33	45	418
3	54	44	46	41	52	33	44	15	34	28	391
4	18	7	7	8	9	14	6	4	23	8	104
5	8	2			1	2	3		9	2	27
6	9					1			2		12
7	5										5
8	3					1					4
9											
10											
11	1										1
総数	438	281	279	271	299	287	287	201	334	252	

回答平均 3.7 2.4 2.3 2.3 2.5 2.4 2.4 1.7 2.8 2.1

このように、「動き」によって様々な特徴が見られた。一番回答数の多かった「あるく」動きは「ちぢむ」動きの2.2倍であった。「あるく」ことは動きの基本であるのでボキャブラリーも多いことが伺い知れる。また、「とぶ」動きや「ゆれる」動きのようにイメージする擬音語・擬

態語が一つのことば「ぴょんぴょん」・「ゆらゆら」に集中した動きもあれば、「ちぢむ」動きのようにイメージする擬音語・擬態語が分散したのもあった。イメージ豊かに多くの擬音語・擬態語を回答した学生もいるが、多くは2～3の回答数であった。子どもたちの動きつまり身体による表現を敏感に受け止める保育者となるためには、自らの周囲に心を開くことや、子どもを取り巻く自然現象や子どもの日常生活をよく知ることが大切である。

Ⅲ 授業課題に見られる学生の感想と考察

領域「表現」では、豊かな感性を育て、表現する意欲を養い、創造性を豊かにする」ことをねらいとしている。アメリカの心理学者ギルフォード (Guilford J. P.) は、創造的思考 (creative thinking—新しいもの、独自なものを生み出す思考) の過程において拡散的思考 (divergent thinking—様々な方向に思考が働くことによって、いろいろな発想を生み出す思考) と収束的思考 (convergent thinking—ある一定の方向に向かっていく思考) が統合されていると考えた。ギルフォードは、創造的思考の視点から、特に拡散的思考を重視して創造性テストを考案している。創造性テストの4つの特性①流暢性 (思考の速さ)、②柔軟性 (思考の広さ)、③独創性 (思考の独自性)、④綿密性 (思考の深さ) のうち、①～③は主に拡散的思考が生み出し、④は収束的思考が生み出すと指摘している。

そこで、「ボディーサウンドを見つけ、アンサンブルしよう」の授業課題の感想に関して拡散的思考に焦点を絞り考察した。

<授業方法>

第一回 手や声で作れるサウンドを見つける。それをういてアンサンブルを味わってみる。

第二回 グループ毎に課題を発表する。(他のグループの発表も見ることができる)

第三回 グループ毎に課題をもう一度考え発表する。(他のグループの発表も見ることができる)

[感想抜粋]

①流暢性 ○多くのアイデアがメンバーから出された。

×何度も身体を叩いたり、擦ったり、弾いたりしながらメンバーで話し合っ
てサウンドを見つけた。

②柔軟性 ○手を叩く場所を上下左右に移動することによって、サウンドの違いを出した。

×頭が硬くて、きまりきったサウンドしか思いつかない。

③独創性 ○巻き舌によって、「トゥルル」という高く響きのあるサウンドを作った。

○徐々にサウンドを出すパートを増やして、ダイナミックなサウンドを作った。

この課題は、学生たちの身体という一番身近な表現媒体を用いているにもかかわらず、あまり流暢にアイデアが出なかった。即座に考えられないグループは「宿題」としたようである。

柔軟性や独創性に関しては、第一回から意欲的なグループもあれば、緊張のためしれきれとんぼ

多 保 田 治 江

に終わったグループもあった。しかし、どれ一つとして同じものはなかった。他のグループの発表を見ることは、一人一人の学生がこの課題を通してサウンドとの関わりを深めているので鋭敏な感覚で接したばかりでなく、次の発表への意欲ともなっていた。

ビデオで撮影し、発表作品を客観的に見ることによって組み合わせられたサウンドのバランスや構成にも目を向けることができたようである。

この課題は、発表作品の出来ばえの評価ではなく、発表までのサウンドに対する学生たちの感性とプロセスを重要視している。つまり、作品のために試行錯誤しながらアイデアを出し合って作るというプロセスである。二回目では多くのボディーサウンドを見つけられるようになったものの、アンサンブルに用いる段階で思い描いた作品のイメージに合わせてサウンドを取捨選択していた。

IV おわりに

今回の調査は、様々な表現の可能性に気づき、表現に対して柔軟な対応ができるかどうかを目的として学生の現状を考察した。保育者の感性は、子どもたちに強い影響力を及ぼすので大切であると考えたためである。本学では、学内の授業に加えて、一年次に附属幼稚園や協力幼稚園で参観や参加実習並びに保育所参観を行った後、二年次に行う教育実習・保育実習において子どもたちと直接かかわる機会を持つこととなる。私は、一人一人の子どもの表現を受け止めることができ、イメージしたことを自分なりの方法で表現することのできる環境、つまり、心を開ける子どもたちの関係を大切に考える保育者を育てたいと考える。

参考文献

- 1) 高橋 誠 編 「創造力辞典」 モード学園出版局
- 2) 古市 久子著 「身体表現」 北大路書房 1998年
- 3) 岡本 夏木 講座「幼児の生活と教育」
高橋 恵子編 4 理解と表現の発達 岩波書店 1994年
藤永 保
- 4) 角尾 和子編 「表現」 川島書店 1999年
角尾 稔
- 5) 浅野 鶴子編 「擬音語・擬態語辞典」 角川書店 1978年
金田一春彦